

のとして示してくれるようになった。

見よ、紅葉の美しさよ。余が弟と共にその傍にそふて歩み、或は橋を渡りて、顧みて、紅色の水、河に湛ゆるを賞し、更にすかし見て青空、青山、緑林と相映ずるを喜ぶを得るが如きは大なる賜に非ずや。或は村落を飾り、町はづれを飾るに小児の群を以てする所の美妙を認め、傾けるを木に支へられし小屋の上を掩ふ柿樹、将に紅熟して枝をるゝばかりにたわむを見て何となく茅屋の民をなつかしく思ふが如き。之れ余が今日の散歩の感情に非ずや。

と、散歩して自然の美を陶醉している。僅か三十分間の散歩ですら忘れることの出来ない記憶に残るものである。と、記してある。

この散歩道は臼坪道の情景である。臼坪川の川沿いのこの道には川沿いに小高い土堤があり、その上に櫛はの木の並木が、養賢寺の前から明神様の前まで続いていた。この記のように秋の紅葉の頃はとても楽しかった。美しく描写している。この通りの景色であった。独歩はよくこの道を散歩している。そしてその美に酔い、感激し感謝している。独歩の自然観賞はこのようにして散歩から

得ていたのである。

( つづく )

### 表紙解説

## 檜野古庵五輪塔

この五輪塔は本誌六十八・九頁にあるように、竹や雑草に埋もれていたものを、切り払って姿を現わした二基の中の一基である。

その形態から、鎌倉末期から南北朝の作と言われ高さ一m四六cm、石質がよいため破損も極めて少ない。佐伯氏にゆかりの塔と思われるが、刻字もなく、詳細は不明である。尚佐伯氏に関する古文書は当地方には皆無に近い。

五輪塔でこんな立派なもの他になく、文化財指定をしてほしいものである。

檜野地区の永福庵には、立派な仏像が残されており、庭には大きな層塔の基部や、古塔の破損されたものが多く、地区のあちこちにも古塔がある。